

(様式3)

外国人児童生徒等教育アドバイザー派遣結果報告書

都道府県名	大阪府	市町村名	東大阪市	大学名	
派遣日	令和3年11月8日(月曜日) 14:00~17:30 ※派遣当日の日程を詳細に記入してください。 ※派遣当日の次第、研修実施要項・日程表等、日程の詳細が分かる資料を添付してください。				
実施方法	※いずれかに○をつけてください。 <input checked="" type="checkbox"/> 派遣 / <input type="checkbox"/> 遠隔				
派遣場所	布施駅前市民プラザ 5Fホール 東大阪市長堂1-8-7 ヴェルノール布施				
アドバイザー氏名	東京学芸大学教職大学院教育実践創生講座 齋藤ひろみ 教授				
相談者	東大阪市教育委員会学校教育部人権教育室 指導主事 上山那々				
相談内容	今年度より新設した、市内小・中・義務教育の日本語指導担当者を対象とした研修。 令和3年度より全学校に担当者を設置したため、これまでに日本語指導を実施していた学校とそうでない学校の認識の差が大きい。 日本語指導担当者や当該児童生徒の在籍する学級担任任せとなり学校としての組織的な指導体制が整っていない。 巡回による指導時間の増加により情報共有の時間確保が困難となっている。 担当者の変更による「日本語指導」の専門的なスキルの継承が困難となっている。 日本語指導についての周知が不十分なため、生活言語能力のみが日本語の能力であると捉えられている。そのため、日本生まれや日本育ちの子どもたちの課題が捉えにくくなっており、各学校や学級で取り組む日本語指導や支援が充実していない。 これらの現状(課題)の解決に向け、文化間移動する子どもの理解、抽出での学習と学級での学習の連携の重要性が相談内容の基軸となる。				
派遣者からの指導助言内容	①文化間移動の事例から、外国にルーツのある子どもの困難を学級や学校の子どもの姿に重ね、理解すること ②在籍学級での学習と抽出による学習をどのように連携させるかという工夫 ③「特別の教育課程」により抽出で学ぶ意義への理解を深めること という3つの課題について、学校全体で検討し体制を整えることが重要である。公務分掌である日本語指導担当者がその役割を果たすことが肝要である。学級の掲示物や日本語指導・JRL カリキュラムの実践事例により、各校が実情に応じて指導の在り方を具体的に検討するためのヒントが提供された。				
相談後の方針の変化、今後の取組方針等	研修受講後アンケートの一部は以下のとおりである。 【小学校】 ・日本語そのものだけではなく、あたりまえと思う習慣や文化も経験などを通して身に付けさせるべきだということを今回の研修で初めて知りました。日本語指導は抽出したときにしているもので、教室での支援は特にいらなないと思われがちです。もっと教室での支援を教員全体で考えていく必要があると思いました。				

<p>・事例として示された子どもに近いケースに対してどのような支援が必要か考えていなかった。具体的な実践やケースの紹介がとても分かりやすくイメージしやすかったです。ありがとうございました。</p> <p>・生活していくうえで必要な言葉や表現を増やし、コミュニケーションの力を育てることが大事だということが分かったので、その視点から子どもの困難にどう対応するか考えようと思いました。抽出で学んだことを周りの友だちとのコミュニケーションで運用していき、力にしていくことが大切なのかなと思ったので、連携は重要だと理解しました。今日の話題にあった日本生まれ、日本育ちの児童についてその子の困り感などをきちんと把握する視点をもっていくことが本校の課題だと思います。</p> <p>【中学校】</p> <p>・表層文化と深層文化についてなんとなく分かっていたことをこの言葉にさせていただくことで理解が深まりました。日本語指導が必要な子どももこのような経験があったのかなと思いながら聞かせていただきました。日本語指導とは、ということが全体に伝わっていないように感じるので 12 月に校内研修を考えています。齋藤先生のお話とても分かりやすく興味深かったです。ありがとうございました。明日からの取組みの一步にします。</p> <p>・自分自身が日本語指導をしているわけではありませんが、ルーツを持つ子の悩みや葛藤を捉えやすくなりました。漠然と認識している事柄を専門的な知識で教えていただいたように感じました。</p> <p>・外国人生徒に対する理解がほぼできていない状況（先生方）ですので、研修など行い、理解を深めていかなければならないのが本校の課題です。現在の担当の生徒もやはりおしゃべりは上手でも母語などは年齢相応のものを獲得できておらず、学習にまで影響がでています。この子たちが将来自分のしたいことを自分でつかむことができる子になれるよう手助けできればと思います。</p> <p>・教室では何も問題なさそうに見えても、実はことばがわからなかったり、理解できていないことがあると思うので、抽出指導としっかり連携して寄り添っていきたいと思いました。日本語指導に関して全教職員で考え、生徒をみていくということができていない気がします。子どもたちの自己実現を達成するために、もっと一人ひとりに寄り添い、より学校に居やすく学習しやすい環境を作っていくといけないと思いました。</p> <p>このように、これまで「日本語指導が必要」だと認識されていなかった特に日本生まれや日本育ちの子どもについて、その必要性を考えるきっかけになった。</p> <p>今後は、令和 3 年度「特別の教育課程」実施計画見直し、令和 4 年度の日本語指導計画作成を通して、各校で子どもたちの「ことばの力」について協議する機会を設ける。子どもの「ことばの力」の把握については加配教員を中心に積極的に D L A を実施し、教職員が多数で子どもの「ことばの力」の見取りや指導計画にかかわる体制づくりを推進する。</p>
--

1 枚にまとめる必要はありませんので詳細に記載願います。

なお、本報告書の内容は、文部科学省ホームページで公開いたします。